

平成 22 年度実施事業

協働事業報告書

目 次

- 協働事業報告会 スケジュール・・・・・・・・・・ P 1
- 応援・連携メッセージ・・・・・・・・・・ P 2
- 協働事業報告書
 - ひらつか花アグリ花のある景観づくり事業・・・・・・・・ P 3
 - 地場産の花を理解する農業理解促進事業「花育」・・・・ P 1 4
 - 平塚市防災フォーラムの開催・・・・・・・・・・ P 2 3
 - 男女共同参画推進紙芝居製作及び啓発事業・・・・・・・・ P 3 4
 - こころと命のサポート事業「自殺対策啓発事業」・・・・ P 4 5

平成 23 年 5 月
平 塚 市

平成 2 2 年度実施協働事業 報告会

●開催日：平成 2 3 年 5 月 1 5 日（日） ●会場：ひらつか市民活動センター

時 間	内 容
1 4 : 0 0	協働事業報告会開会 ・ 協働事業審査会委員長あいさつ ・ 協働事業審査会委員紹介 ・ 事務局説明（スケジュールと発表の方法など）
1 4 : 1 0	1 . 平成 2 2 年度実施事業の報告（プレゼンテーション） 各事業ごとに報告発表（ 6 分 ） 審査員からの助言等（ 3 分 ） ひらつか花アグリ花のある景観づくり事業 地場産の花を理解する農業理解促進事業「花育」 平塚市防災フォーラムの開催「わが地域の防災の取り組み ～今、地域で何ができる？～」 男女共同参画推進紙芝居製作及び啓発事業 こころと命のサポート事業「自殺対策啓発事業」 2 . 会場からの応援メッセージ
1 5 : 2 0	3 . 市民活動団体から「今後の協働や団体間連携の強化に向けて」 ・ ひらつか市民活動連絡協議会 ・ ひらつか自治体財政研究会 ・ N P O サポート平塚
1 5 : 3 0	4 . かながわボランティア活動基金 2 1 の紹介 ・ かながわボランティア活動基金 2 1 の概要説明 ・ 高次脳機能障害ピアサポートセンター運営等支援事業 （ 特定非営利活動法人 脳外傷友の会ナナ ）
1 6 : 0 0	閉会予定

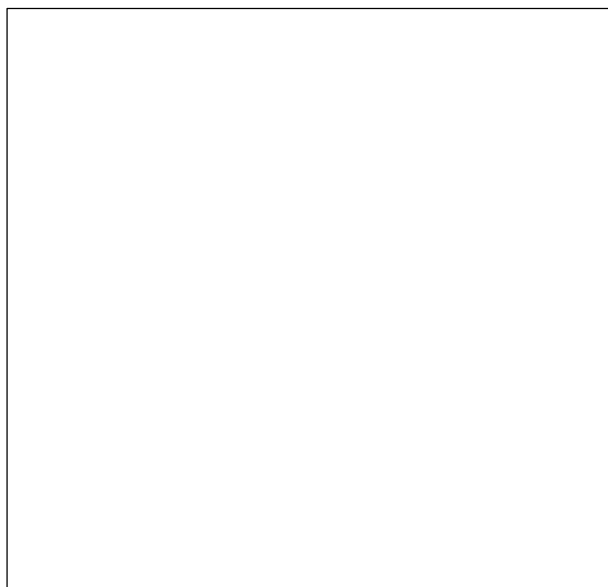
報告（プレゼンテーション）した団体を応援！

コラボ
応援 連携メッセージで
会場からの声を届けよう！

下の付せん（ポストイット）に、応援メッセージを書いて、
会場後方のメッセージボードへ貼り付けて下さい。

お名前や団体名などは無記名でも記名でも構いません。

協働事業報告会の最後に、書いていただいた中から、いくつか
メッセージを発表いたします。



こんな声を届けよう

- ・ 報告団体へ活動や事業のアドバイスや感想など
- ・ 自分たちの団体や個人が連携・協力・参加・支援できること
- ・ その他、「がんばれ！」の気持ちを込めて伝えたいこと

平成 22 年度 協働事業報告書

○	行政提案型協働事業
	市民提案型協働事業

平成 23 年 3 月 31 日

(あて先)
平塚市長

団体名 明日の金田を創る会
 代表者氏名 山村 高治
 事業担当課名 農水産課
 事業担当課長名 今井 宏明

平成 22 年度 (事業名) ひらつか花アグリ 花のある景観づくり事業について下記のとおり事業報告いたします。

記

実施した事業の概要	「花菜ガーデン」(県立花と緑のふれあいセンター)の北側に位置する古川排水路沿いの桜並木及び県道平塚・秦野線から市道 寺田縄 25 号線への進入道路の道路残地にある植栽帯に四季折々の花を植栽した。
-----------	---

月	日	場所	内容	参加人数
4	1	豊原分庁舎 2 階	協働契約書の締結	1 名参加
4	9	古川排水路沿い	除草・草刈り、SCN 現場取材	38 名参加
		金田公民館	役員会議	7 名参加
4	14	金田公民館	平成 22 年度総会	12 名参加
4	18	古川排水路沿い	除草・草刈り、耕うん、紫陽花・さる菊苗の植え付け	35 名参加
4	19	古川排水路沿い	花ニラ植え付け	1 名参加
5	1	古川排水路沿い	除草、水やり	27 名参加
5	13	古川排水路沿い	ダリヤ・ジャーマンアイリス・ひまわりの植え付け	5 名参加
5	22	古川排水路沿い	除草・草刈り、ジャーマンアイリス・チューリップの植え付け	41 名参加
6	4	古川排水路沿い	水やり	1 名参加
6	5	古川排水路沿い	除草・草刈り、水やり、ひまわり・花ニラの植え付け	31 名参加
6	26	古川排水路沿い	除草、耕うん、水やり、ブルーサルビア等の植え付け	34 名参加
7	3	古川排水路沿い	除草、耕うん、水やり、マリーゴールドの植え付け	34 名参加
7	23	古川排水路沿い	水やり	1 名参加
7	24	古川排水路沿い	除草、草刈り	39 名参加
8	7	古川排水路沿い	ユースボランティア受け入れ(15 名)、水やり、耕うん	35 名参加

			マリーゴールド・キトサコスモス、アンケロニアの植え付け	
8	10	県道残地	プランターに日々草の植え付け	2名参加
8	17	古川排水路沿い	水やり	2名参加
8	26	古川排水路沿い	水やり	3名参加
8	30	古川排水路沿い	水やり	1名参加
9	4	古川排水路沿い	除草、耕うん、水やり、ポーチュラカの植え付け	36名参加
			作業後、役員会議	5名参加
9	19	金田公民館	役員会議	6名参加
9	25	古川排水路沿い	ほうき草抜き	5名参加
9	27	金田公民館	役員会議	5名参加
9	29	金田公民館	中間報告会	18名参加
10	2	古川排水路沿い	除草、秋明菊・ピオラ・ブルーサルビア・金魚草の植え付け	44名参加
11	6	古川排水路沿い	除草	25名参加
12	4	古川排水路沿い	チューリップ・パンジーの植え付け、ヘアリーベッチの種播き	35名参加
		県道残地	プランターの整理とパンジーの植え付け	
12	6	古川排水路沿い	葉牡丹の植え付け	1名参加
1	18	金田公民館	役員会議	6名参加
1	29	古川排水路沿い	追肥作業、水やり、ストック・パンジー・ピオラの植え付け	37名参加
2	2	古川排水路沿い・県道残地	水やり	6名参加
2	18	花菜ガーデン会議室	研修会『乾壇作りについて』講師 花菜ガーデン 河野	34名参加
3	12	古川排水路沿い	除草、施肥	25名参加

決算報告書

金額単位:円

① 収入		項目		予算額	決算額	増減額	具体的な内容
収入		市からの委託料		188,000	188,000	0	市との協働事業に伴う委託料
		団体からの負担金		0	29	29	
		収入計		A 188,000	B 188,029	B-A 29	
		項目		予算額	決算額	増減額	具体的な内容
② 支出		草刈り経費		68,000	69,726 (69,726)	1,726	鍬、スコップ等小農機具類、耕運機燃料代
		花類植栽経費		102,000	81,125 (81,125)	-20,875	花の苗、種
		土づくり経費 (肥料代)		8,000	9,517 (9,517)	1,517	堆肥、化成肥料
		事務費		4,000	7,112 (7,112)	3,112	紙、コピー代など
		作業時飲料費		6,000	20,549 (20,520)	14,549	お茶、紙コップ 【現場作業時(ユースボランティアや炎天下の作業時など)の飲み物購入にのみ使用】
		支出計		C 188,000	D 188,029 (188,000)	D-C 29	
②支出の決算額の()内は、市からの負担分をご記入ください。							

収入合計 - 支出合計 = 残
188,029円 - 188,029円 = 0円

平成 22 年度 花のある景観づくり事業 写真



平成 22 年 8 月 7 日

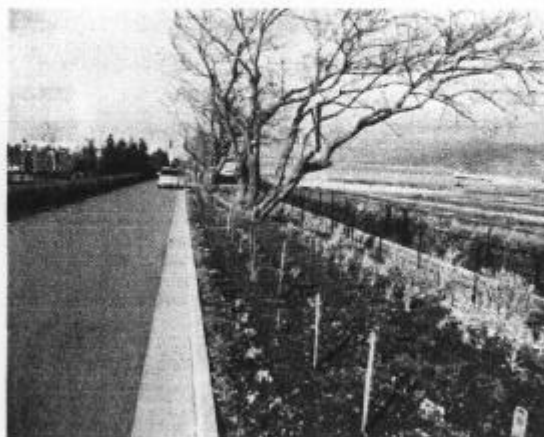
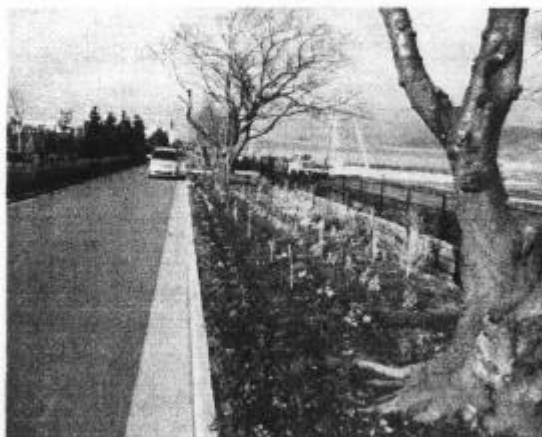


平成 22 年 8 月 7 日 (ユースボランティア受け入れ)



平成 23 年 2 月 18 日 (花菜ガーデンにて研修)

平成 22 年度 花のある景観づくり事業 写真



平成 23 年 2 月 19 日



平成 23 年 3 月 24 日



平成 23 年 3 月 30 日

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

事業名	ひらつか花アグリ 花のある景観づくり事業 (事業開始年度：平成 21 年度～)		
■ 団体名：明日の金田を創る会		□ 担当課：農水産課	
総事業費	188,029 円	内 訳	行政 188,000 円
			団体 29 円

評価の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価 (5段階)
事業の「目的は共有」できましたか。	4
事業での「役割分担」は適正でしたか。	4
「十分に協議」を行いましたか。(双方の特性の理解に努めましたか。)	4
「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5
それぞれが単独で実施するよりも、「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5

～ の補足内容や、「メリット」・「課題とその対応」などがあれば、ご記入ください。

協働事業を通じて、団体メンバーである住民同士(農業従事者や植木の専門家などを含む)とユースボランティア、行政などのネットワークが構築できたことが大変良かった。今後は、このネットワークを引き続き活かしつつ、さらに新たなネットワークを広げていけるようにしたい。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

(2) 事業「内容」の成果

評 価 項 目	評 価 (5段階)
事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4
事業の「経費に見合うサービス」の提供が図られましたか。	4
事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	4
花と一緒に写真を撮っている姿が多く見られた。	

～ の補足内容や、「メリット」・「課題とその対応」などがあれば、ご記入ください。

昨年度、行政提案型協働事業報告会で、協働事業審査員から「若年層へのアプローチが弱い」という意見をいただいた。それを受け、8月にユースボランティア15名を受け入れ、一緒に花を植えたり、水やり等を実施した。
 今後は、地域の子供たち等に体験学習的なものとして実施し、交流などを行っていきけるようになりたい。

(3) その他、気付いたことをご記入ください。

昨年度の課題であった「ボランティアを含めた勉強会」を2月に花菜ガーデンで開催することができ、知識・技術力の向上を図れたことがよかった。

(4) 今後の方向性

- ① 今後も協働で実施 2、団体が主体的に実施 3、行政が主体的に実施 4、休止・終了
 5、その他（具体的な事業展開や、1～4の補足事項）

1 .

平成21年度から3年間の継続事業ということで、23年度も協働で事業を実施する。
 24年度については、まだ検討中だが、事業の規模拡大などを行ったうえで、継続性のある内容の事業を協働で実施していきたい。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

事業名	ひらつか花アグリ 花のある景観づくり事業 (事業開始年度：平成 21 年度～)		
□ 団体名：明日の金田を創る会		■ 担当課：農水産課	
総事業費	188,029 円	内 訳	行政 188,000 円
			団体 29 円

評価の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評 価 項 目	評 価 (5 段階)
事業の「目的は共有」できましたか。	4
事業での「役割分担」は適正でしたか。	4
「十分に協議」を行いましたか。(双方の特性の理解に努めましたか。)	4
「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5
それぞれが単独で実施するよりも、「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5

～ の補足内容や、「メリット」・「課題とその対応」などがあれば、ご記入ください。

昨年に引き続きの事業であったこともあり、お互いを十分理解した上で、きちんとした役割分担のもとに事業を実施することができ、単独で実施するよりも効果的な活動となった。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業「内容」の成果

評 価 項 目	評 価 (5段階)
事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5
事業の「経費に見合うサービス」の提供が図られましたか。	5
事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	4
昔は雑草だらけだったのに、見違えるようだという意見があった。	

～ の補足内容や、「メリット」・「課題とその対応」などがあれば、ご記入ください。

古川排水路沿いの桜並木の周辺に花を植栽することが事業内容であるが、昨年度に比べ、倍以上の広さの土づくりと花の植栽を実施することができ、事業の目的・目標の達成と景観の創造が果たされたと思う。

(3) その他、気付いたことをご記入ください。

昨年度に比べ、活動回数や動員数も増えているし、ユースボランティアを受け入れたり、研修会を開くなど、「明日の金田を創る会」の組織体制が充実してきたように思われる。

(4) 今後の方向性

- ① 今後も協働で実施 2、団体が主体的に実施 3、行政が主体的に実施 4、休止・終了
5、その他（具体的な事業展開や、1～4の補足事項）

1 .

平成21年度から3年間の継続事業ということで、23年度も協働で事業を実施する。

平成22年度実施協働事業

B:「相互」評価シート

○	行政提案型協働事業
	市民提案型協働事業

市民活動団体、行政のそれぞれが記入した「A:自己評価シート」をもとに、
双方で話し合った内容をご記入ください。

事業名	ひらつか花アグリ 花のある景観づくり事業 (事業開始年度:平成21年度~)		
団体名:明日の金田を創る会	担当課:農水産課		
総事業費	188,029円	内 訳	行政 188,000円
			団体 29円

(1) 協働の「視点」(目的共有、役割分担、十分な協議、対等な立場、相互評価や波及効果等)

昨年に引き続きの事業であったため、お互いを十分理解した上で、きちんとした役割分担のもとに事業を実施することができた。
協働事業を通じて、団体メンバーと行政以外のネットワークも構築できたので、さらに新たなネットワークを広げつつ、事業を推進していきたい。

(2) 事業「内容」の成果(目的・目標の達成、費用対効果、受益者サービス等)

月1回以上活動したことで、古川排水路沿いの桜並木の周辺に、菜の花、ブルーサルビア、ひまわり、ポチュラカ、パンジー・ビオラなど、四季折々の花を植栽することができ、事業の目的・目標の達成とともに、景観の創造が果たされたと思う。

(3) その他、気付いたことをご記入ください。

活動回数や動員数も増えているし、昨年度に課題であった「ボランティアを含めた勉強会」や「若年層へのアプローチが弱い」という点について、花菜ガーデンで研修会を実施したり、ユースボランティアを受け入れるなど、「明日の金田を創る会」の組織体制が充実してきた。

(4) 今後の方向性

- 1、今後も協働で実施 2、団体が主体的に実施 3、行政が主体的に実施 4、休止・終了
5、その他（具体的な事業展開や、1～4の補足事項）

1 .

平成 2 1 年度から 3 年間の継続事業ということで、2 3 年度も協働で事業を実施する。
2 4 年度以降については、まだ検討中であるが、事業の規模拡大などを行ったうえで、
継続性のある内容の事業を協働で実施していきたい。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

平成 2 2 年度 協働事業報告書

○	行政提案型協働事業
	市民提案型協働事業

平成 2 3 年 3 月 3 1 日

(あて先)
平 塚 市 長

団体名 花育ボランティア「花伝道師」
代表者氏名 横田 八重子
事業担当課名 農水産課
事業担当課長名 今井 宏明

平成 2 2 年度 (事業名) 地場産の花を理解する農業理解促進事業「花育」について下記のとおり事業報告いたします。

記

実施した 事業の概要	花き産地の利点を活かして、「花と緑にふれあいを持って、生命と自然についての理解を深める」ことを目的とした。特産品のバラなど、多種多様な地場産の花を通じて、遊びながら植物を知ってもらう活動を実施。生産現場や花とのふれあい体験を絡めたイベントの参加・企画を行い、地場産の花の魅力や楽しみ方の普及。小さいころから花と親しむ機会を増やし、花が生活の中で身近にある環境を提供した。
実施年月日、 実施内容、 参加者等	保育園、幼稚園における花育の実施（対象：児童、親） 小さいころから花と親しむ機会をつくり、花が生活に身近にあることを提供 主な活動内容：地場産の花の紹介、紙芝居、押花体験、作画 5月13日・21日 しらさぎ保育園 参加20名余 5月24日・31日 港幼稚園 参加20余名 10月14日・21日 南原幼稚園 参加20余名 10月28日・11月4日 金目幼稚園 参加20余名 11月10日・18日 夕陽ヶ丘保育園 参加20余名 12月7日・16日 大神保育園 参加20余名 1月13日・20日 須賀保育園 参加20余名 2月8日・22日 花水台保育園 参加20余名 生産者とのふれあい事業（対象：子供～大人） 花き産地の利点を活かして、生産現場を見学するツアーのコーディネートを実施する 主な活動内容：生産現場の紹介、花菜ガーデンへの案内 12月17日 参加者：一般市民16名 バラ生産者2箇所、鉢花生産者1箇所見学→花菜ガーデン視察 3月19日（地震の影響により中止）

	地場産の花き植栽体験（対象：子供～大人） 生産者を講師に、八幡山洋館前での花壇づくりの植栽体験の実施。 主な活動内容：地場産の花の紹介、植栽に関する注意点 4月24日 参加者：一般市民12名 10月23日参加者：一般市民16名 * 植栽後の管理を定期で花育ボランティア「花伝道師」が行っている。 花カフェの開催（対象：子供～大人） 地場産の花をテーマとしたカフェの開催。花を通じてのコミュニケーションの促進と花関係者に対して事業展開への研究 主な活動内容：フラワーアレンジ体験、花の観賞でのお茶などの憩いの場の提供 11月20日 フラワーアレンジ体験参加者：43名 3月19日（地震の影響により中止） 地場産の花の楽しみ体験 地場産の花を使い、イベント会場で様々な体験コーナーを実施 4月29日 緑化まつり でこっぱち体験 参加者44名 * でこっぱち＝素焼き鉢にそれぞれが自由に絵具を使って作画し、オリジナルの鉢を作り、最後に地場産の鉢花を渡して花を育ててもらう。 5月27日～6月1日 湘南ひらつかフラワーシティ 押花体験 参加者42名 9月27日～10月2日 バラの一輪挿し花瓶コンテスト ミニフラワーアレンジ 参加者19名 押花体験 参加者15名 でこっぱち 参加者20名 11月13日、14日 でてこいまつり ミニフラワーアレンジ 参加者 80名 でこっぱち 参加者120名 3月2日～3月8日 平塚市春の花き展 押花体験 参加者10名
--	--

決 算 報 告 書

金額単位：円

項目	予算額	決算額	増減額	具体的な内容
市からの委託料または負担金	400,000	176,884	-223,116	残余金が発生したため返金
事業収入	195,000	56,500	-138,500	イベント参加44,300円・ツア－参加料12,200円
収入計	A 595,000	B 233,384	B-A -361,616	
項目	予算額	決算額	増減額	具体的な内容（増減の理由や積算根拠）
ツア－バス代	240,000	(0)	-240,000	バスの借上げが旅行業法上、行えなかったため
花・材料費	232,000	133,660 (79,250)	-98,340	各企画用花材、培養土、肥料等
消耗品費	67,000	63,634 (63,634)	-3,366	ポンド、和紙、コピー用紙、ラミネートフィルム代
謝礼	20,000	5,000 (5,000)	-15,000	植栽講師5,000円×1回
交通費	36,000	29,000 (29,000)	-7,000	保育園訪問、ツア－下見等
保険料	0	2,090 (0)	2,090	ツア－保険料
支出計	C595,000	D233,384 (176,884)	D-C -361,616	
支出の決算額の（ ）内は、市からの負担分をご記入ください。				

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

事業名	地場産の花を理解する農業理解促進事業「花育」 (事業開始年度：平成 22 年度～)		
■ 団体名：花育ボランティア「花伝道師」		□ 担当課：農水産課	
総事業費	233,384 円	内 訳	行政 176,884 円
			団体 56,500 円

評価の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評 価 項 目	評 価 (5段階)
事業の「目的は共有」できましたか。	3
事業での「役割分担」は適正でしたか。	4
「十分に協議」を行いましたか。(双方の特性の理解に努めましたか。)	2
「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4
それぞれが単独で実施するよりも、「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5

の補足内容や、「メリット」・「課題とその対応」などがあれば、ご記入ください。

私たちの事業計画を実施するためには、花き生産者との連携が不可欠。お互いに理解して、お互いの持てる力を発揮して魅力ある活動をしてこそ、一般の人たちの共感が得られます。そのためにも担当課には対等な立場を尊重して花き生産者とのパイプ役をお願いいたくおもいます。今年は初年度でもあり、担当課との連携がスムーズに行かない場面もありました。平塚市の信用で活動が動きやすかった(保育園への広報等)また、活動の場を提供していただけた。 について担当が短期間に何人も変わり、難しかった。 について、事業計画が多く、細かに協議する時間の余裕がなかった。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート→

C : 審査会の意見

(2) 事業「内容」の成果

評価項目	評価 (5段階)
事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5
事業の「経費に見合うサービス」の提供が図られましたか。	5
事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	5
〔評価できない場合の理由：〕	

の補足内容や、「メリット」・「課題とその対応」などがあれば、ご記入ください。

幼稚園や保育園の依頼が多くなった。
花カフェは、市予算のお陰で非常に充実し、喜ばれ次回につながるイベントができました。
PRの仕方が不足したので、今後は良く検討して進めたい。

(3) その他、気付いたことをご記入ください。

生産者とのコミュニケーションが少なかった。

(4) 今後の方向性

1、今後も協働で実施 2、団体が主体的に実施 3、行政が主体的に実施 4、休止・終了
5、その他（具体的な事業展開や、1～4の補足事項）

1、23年度は協働で実施する。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

事業名	地場産の花を理解する農業理解促進事業「花育」 (事業開始年度：平成 22 年度～)		
□ 団体名：花育ボランティア「花伝道師」		■ 担当課：農水産課	
総事業費	233,384 円	内 訳	行政 176,884 円
			団体 56,500 円

評価の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評 価 項 目	評 価 (5段階)
事業の「目的は共有」できましたか。	4
事業での「役割分担」は適正でしたか。	4
「十分に協議」を行いましたか。(双方の特性の理解に努めましたか。)	4
「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4
それぞれが単独で実施するよりも、「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5

の補足内容や、「メリット」・「課題とその対応」などがあれば、ご記入ください。

「地場産の花」であることを強調して、市民に紹介することを心掛けていただいた。協働事業 1 年目ということで当初は役割分担が明確にできなかった面がいくつかあったが、事業を行うごとに解消することができた。
イベント等で地場産の花を P R する際に行政が単独で行うより、ボランティアと一緒に行うことで、市民がより親しみやすく、より身近に話を聞いたり、体験に参加していただいた。

評価の流れ **A : 「自己」評価シート** → B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

(2) 事業「内容」の成果

評価項目	評価 (5段階)
事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4
事業の「経費に見合うサービス」の提供が図られましたか。	4
事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	4
評価できない場合の理由：	

の補足内容や、「メリット」・「課題とその対応」などがあれば、ご記入ください。

幼稚園・保育園の花育では、園の職員から評判が良く、是非次回もお願いしたいとの声をいただく。実際23年度において、募集から10日程度で6件もの申し込みがあった。
(22年度は1年間で8園実施)
受益者から評価を知る仕組みがアンケートや体験参加人数によってしかないのが課題。
その中で、概ね満足いただいている。

(3) その他、気付いたことをご記入ください。

(4) 今後の方向性

①、今後も協働で実施 2、団体が主体的に実施 3、行政が主体的に実施 4、休止・終了5、その他(具体的な事業展開や、1～4の補足事項)

現在行政と市民団体はもとより、地元の花生産者にも参加いただいている。今後は地域住民や他の市民団体と連携の必要があれば検討していきたい。
例えば、現在八幡山の洋館前にて地元産の花を植えており、その管理をボランティアが行っているが、花好きの団体や地域住民などを加えて大勢の人が関わりを持つことで地元産の花の普及につながり、また、コミュニティの活性化にも寄与できるような連携。

平成 22 年度実施協働事業

B : 「相互」評価シート

○	行政提案型協働事業
	市民提案型協働事業

市民活動団体、行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、
双方で話し合った内容をご記入ください。

事業名	地場産の花を理解する農業理解促進事業「花育」 (事業開始年度：平成 22 年度～)		
団体名：花育ボランティア「花伝道師」	担当課：農水産課		
総事業費	233,384 円	内 訳	行政 176,884 円
			団体 56,500 円

(1) 協働の「視点」(目的共有、役割分担、十分な協議、対等な立場、相互評価や波及効果等)

相互効果や波及効果については両者ともに高い評価にあった。また、役割分担や対等な立場という点でも適正に行えた。しかし、初年度であったこと、また、担当者が協働事業開始前後に交代があり、連携がスムーズにいかない場面が何度とあった。

(2) 事業「内容」の成果(目的・目標の達成、費用対効果、受益者サービス等)

花育事業の大きな柱の一つである幼稚園・保育園での花育体験は概ねどの園でも評価いただいている。裏付けとして、1年を通して昨年は8園の申し込みであったが、23年度はすでに7園の申し込みを受け付け、相談したい園も数か所していることから昨年度を上回ると推測される。

(3) その他、気付いたことをご記入ください。

課題として、生産者とのコミュニケーションが少ないこと。花き生産者との意向を酌んだ活動を前提としているが、花き産業が景気の後退や地震の影響で落ち込んでおり、花育事業にかかる余裕がない状態である。その中で生産者との協力体制を築き、22年度より生産者との連携を深めよりよい花育事業を展開していきたい。

(4) 今後の方向性

①、今後も協働で実施 2、団体が主体的に実施 3、行政が主体的に実施 4、休止・終了

5、その他（具体的な事業展開や、1～4の補足事項）

--

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

平成 22 年度 協働事業報告書

○	行政提案型協働事業
	市民提案型協働事業

平成 23 年 3 月 31 日

(あて先)
平 塚 市 長

団体名 ひらつか防災まちづくりの会

代表者氏名 篠 原 憲 一

事業担当課名 防災危機管理課

事業担当課長名 和 田 芳 男

平成 22 年度 (事業名) 平塚市防災フォーラムについて下記のとおり事業報告いたします。
記

実施した 事業の概要	・平塚市防災フォーラムの開催 * フォーラムまでの経過 ・地域防災アンケートの実施 ・地域防災活動者育成研修(2回)への協力 ・地域防災懇談会(3回)を実施 ・地域リサーチ・インタビューの実施
実施年月日 実施内容 参加者等	【事業内容】 平塚市防災フォーラム「わが地域の防災の取り組み」～今、地域で何ができる?～ 日 時 平成 23 年 1 月 22 日(土) 14:00～16:30 場 所 平塚市中央公民館大ホール 構 成 1 部基調講演 2 部パネルディスカッション 参加者 410 名 1 基調講演 (1) 講師 神奈川大学工学部 荏本孝久教授 (2) 演題 『自助・共助から考える地域コミュニティの大切さ』 ～地域の防災力を高めよう～ (3) 内容 平塚市の揺れ易さ・50メートルメッシュによる平塚市地盤・地域防災カル テ・コミュニティの大切さについて講演し、協働事業で実施した平塚市地域防災 アンケートを分析し講評した。 2 パネルディスカッション 地域で特徴のある活動をしている4人のパネリストが、それぞれの行っている取り組みを 発表しパネルディスカッションを行った。 (1) パネリスト ○ 大原連合防災担当 及川剛氏 小さいなら小さいなりの『無理なく楽しい防災を』 立ち上がったばかりの小連合組織、総合公園のそばにある。連合組織防災体制。 楽しく無理ない取り組みが特徴。防災備品購入補助金がなくなったので、自分た ちで防災用具(担架・車いす等)を作成するなども行っている。

- 豊原町内会防災部長 柿島昌二氏
 『昼間災害に備えて『学生班募集を』
 昼間災害対策として、子ども会から移行して存在する組織中学生分団に注目、学生班を募集したところ、中高校生から46名もの応募があった。中高校生を情報班・救護班避難誘導班救出班等に分け、体制作りをしている。
- 桃浜町自治会副会長 安永享滋氏
 『入り組む町並みから『支え合う組織作りへ』
 狭隘道路で消防車が入れない町並みから、しっかりした体制づくりに取り組んでいる。年二回の自主防災会で話し合うほか、「命にかかわることにはお金を惜しまない」と、ハザードマップ・町内消火栓消火器等のカラー地図、防災情報を全戸配布する等実施。安永氏は中越地震調査隊として現地入りした体験を持つ。
- 田村自主防災会本部本部長代行 落合紀勝氏
 『地域の総力で『迎え撃とう、災害を』
 5、6年前、自治会連合とは別組織として自主防災連合を作り委託したが、3年経っても何も進まなかったことから、数年前、田村地区14自治会が合同で自主防災会連合を組織した。合同で防災訓練企画を行うほか、中学生への呼びかけも実施。心肺蘇生法、バンダナを使用した救護訓練、NTTの協力を得ての災害時伝言ダイヤル訓練等も実施した。

(2) コーディネーター：時事通信社防災リスクマネジメント WEB 編集長 中川和之氏

- 3 その他（フォーラム感想アンケートの実施、参加者の決意表明を館内壁に掲示）
- ・非常に良かった・良かったとの声が大半。
 - ・「このようなフォーラムの継続を望む」
 - ・「中学生の発言に感銘を受けた」
 - ・「できることから進めたい」
 - ・「地域が大事」等々

【防災フォーラムに至るまでの経過】

1 地域防災アンケートの実施（対象：市内全自治会・回収数168 / 235）

実施時期 5月

(1) 目的

地域防災の課題・解決へのヒントを地域アンケートの回答から導き出すことを狙いとした。（作成にあたっては、21年度アンケート結果・その後の地域インタビューで浮かんできた地域共通の防災の課題・工夫等を参考とした。）

(2) 結果

アンケート項目の結果から、地域防災対策について「順調と考えている地域」37件・「そうでないと考えている地域」125件を比較する形式でまとめた。

類似点（順調地域・そうでない地域とも似通った回答結果）

役員の輪番制 役職の兼務 役員の高齢化等

今後、要援護者対策の取り組みを行いたい。

相違点

役員の受け手がいない（順調地域ではこの回答が少なく、そうでない地域では多い）

過去三年間の取り組み

・「そうでない地域」は講話講演・消火・避難訓練等の取り組みが比較的多く見られた。

・「順調な地域」では、種々の取り組みが多く試みられている。

○ 災害や町の体制を「知る・周知する」

○ 単位自主防災会・連合会で「話し合う」

○ 組織連絡体制、民生委員等との協力体制や支援者の把握募集等、要援護者支援対策等の仕組み作り

○ 女性・中高生・企業店舗等との協力「地域資源の活用（物的・人的・昼間災害対策）」

○ 日常行事に防災を組み入れる等

自由記入欄から

* 「順調でない地域」の進みにくい理由として、○効果的な訓練の方法がわからない、○周知が徹底しない為住民の意識が低い、○自治会行事に忙しく防災対策にまで手が回らない、○役員の輪番制・役職兼務、○防災専任がいない、○地域の高齢化、○昼間人口の減少等を挙げている。

* 「順調な地域」では、組織体制等は同じ条件下であっても、まめに周知を行う・日常行事に防災を組み込む等、何らかの工夫を行う姿勢がうかがえる。

(3) 広報

アンケートは、防災フォーラムで結果報告後、全自治会に配布、及び市ホームページで公開した。

2 地域防災活動者研修への協力

地域防災活動者研修(平成7年から平塚市防災危機管理課主導で実施されている)全4回のうち、第1回6月及び第4回10月に、ひらつか防災まちづくりの会が協力した。

(1) 第1回(6月18日)参加者190名

- ・講演 「平塚市の揺れ易さ」神奈川大学荏本教授
- ・アンケート『大丈夫?あなたの地域』・・・地域の特徴・課題・考えられる工夫アイデア等の情報を収集。

(2) 第4回(10月23日)参加者160名

- ・ワークショップクロスロード 及び まとめ講演(神奈川大学荏本教授)
- ・感想アンケート・・・「平塚が揺れ易い地域であることがわかった」「ワークショップ:クロスロードを地域で行ってみたい」等の声があった。

3 地域防災懇談会の実施 (全3回)

地域防災アンケートの結果等から、以下三つの防災懇談会を開催した。

- | | |
|-----------------------|---------|
| (1) 地域防災懇談会(8月21日) | 参加 20余名 |
| (2) マンション防災懇談会(9月23日) | 参加 20余名 |
| (3) 順調地域防災懇談会(11月23日) | 参加 30名 |

・結果

地域の課題・取り組みの工夫についての意見交換の場となると共に、情報交換の有意性を示すものとなった。

感想アンケートでは「非常に参考になった」・「こうした場の継続を望みたい」との声が多く見られた。

4 地域リサーチ・インタビューの実施

フォーラムパネリスト選出のため、22年度のアンケート回答結果・防災懇談会の様子を参考に地域リサーチ・インタビューを行った。

決 算 報 告 書

金額単位：円

項目		予算額	決算額	増減額	具体的な内容
収 入	市からの委託料または負担金	126,000	126,000		
	会費収入	計上せず	計上せず		
	事業収入	0	0		
収入計		A 126,000	B 126,000	B - A 0	
項目		予算額	決算額	増減額	具体的な内容（増減の理由や積算根拠）
支 出	講師謝礼（交通費等含）	70,000	70,000 (70,000)	0	神奈川大学工学部 桂本孝久教授へまとめたの謝礼 地域防災活動者育成研修講演(2回) / 防災フォーラム基調講演
	パネラー・コーディネーター謝礼	20,000	30,000 (30,000)	+ 10,000	フォーラムパネリスト謝礼 5,000円×4(名) フォーラムコーディネーター謝礼 10,000円×1(名) コーディネーター中川氏には事前3回の打ち合わせに承平頂いた為。
	事務費等	30,000	22,790 (22,790)	- 7,210	懇談会案内葉書・印刷費・コピー代・プリンタインク代等
	交通費等	0	3,210 (3,210)	+ 3,210	打ち合わせに係る駐車料金等（市民活動センター）
	消費税額	6,000	0 (0)	- 6,000	経費に組み入れ
			()		
			()		
			()		
	支出計	C 126,000	D 126,000 (126,000)	D - C 0	
	支出の決算額の（ ）内は、市からの負担分をご記入ください。				

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

事業名	平塚市防災フォーラム「今、地域で何ができるか」 (事業開始年度：平成 21 年度～)		
■ 団体名：ひらつか防災まちづくりの会		□ 担当課：平塚市防災危機管理部危機管理課	
総事業費	126,000 円	内 訳	行政 126,000 円
			団体 0 円

評価の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評 価 項 目	評 価 (5 段階)
事業の「目的は共有」できましたか。	5
事業での「役割分担」は適正でしたか。	4
「十分に協議」を行いましたか。(双方の特性の理解に努めましたか。)	4
「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4
それぞれが単独で実施するよりも、「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4

の補足内容や、「メリット」・「課題とその対応」などがあれば、ご記入ください。

【目的の共有】と【十分な協議】

「地域防災を進める」という事業目的は担当課と団体の間で充分共有できたと思う。「後での食い違いを防ぐ為に時間をかけて協議を行うべき」とする行政側の姿勢により、1 月 22 日フォーラムに至るまで時間の許す限りの「十分な協議」となったと思う。

フォーラム後は、東日本大震災発生(3 月 11 日)により、予定の協議を延期せざるを得ない等の事態が生じた。

【役割分担】

ほぼ契約書の内容に沿ったものになったと思う。

役割分担中、「防災お手伝いの実施」については、団体側にも余裕がなく、行政に PR を依頼することもなく年度を終えた。しかしながら三度の防災懇談会の内容が充実していたことでその部分は補えたものとする。

【対等な立場】

任意団体の自由な動き・行政の公平性等、組織・体制の違いから生じる認識等の違いは、今後の課題として修正を図っていく必要があると思う。が、各々自由に発言しての協議が行われる等「対等な立場」は保たれていたと考える。

【メリット】

・行政の信用

フォーラム・防災活動者研修・防災懇談会とも、団体側独自では望めない参加者数となった。また、地域アンケートの返送数についても同様で、行政の信用が背後にあることが大きく関連したと思う。

・地域への案内・印刷・書類へのアドバイス

庁内印刷・地域への案内状発送等、費用・広報等の点で、行政に協力頂いた部分は大きかった。ポスター作成・地域防災アンケート作成・まとめ等々、数々の部分で行政からも意見やアドバイスを頂き、相談にも乗って頂いた。

【課題】

、個人情報の扱いについて

「地域防災アンケートほか、懇談会等で頂いた個人情報をどう扱うか」についてはアンケート実施等の際に予め「頂いた情報についての扱い」を明記しておく必要があった』というのが反省点である。（例；以下1，2）

、広報について

協働事業における広報第一報（記者発表等を含む）は、行政に委ねることとなっている。22年度はこの点についての認識が充分でなく行き違いが生じる場面もあった。

なお、協議の結果、協働事業における成果物は行政・団体双方に帰属し、広報後は行政・団体とも自由に紹介して良いという認識で一致している。

評価の流れ **A：「自己」評価シート** → B：「相互」評価シート → C：審査会の意見

（２）事業「内容」の成果

評 価 項 目	評 価 (5段階)
事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4
事業の「経費に見合うサービス」の提供が図られましたか。	5
事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	4
(評価できない場合の理由：)	

の補足内容や、「メリット」・「課題とその対応」などがあれば、ご記入ください。

【事業の目的目標】

最終目的は「今、地域で何ができるか」をテーマとしたフォーラムであった。パネリストの発表や地域防災アンケートの結果から、課題解決への工夫もある程度導き出せたと思う。

【経費に見合うサービス】

経費との比較ではかなりのサービスを提供できたのではないかと考える。

決算では126,000 円中 100,000 円を講師パネリスト・コーディネーターへの謝礼とし、事務費通信費等を 26,000 円としているが、大半の資料を庁内印刷として頂いたことで大きく助けられた。

一方、インタビューやパネリスト・講師等との打ち合わせに係る交通費・通信費・懇談会での飲み物等々については、団体または個人に負うところも少なくはなかった（22年度申請の際に団体の負担分を計上していないことにもよる）

【受益者の満足度】

各防災懇談会・活動者育成研修等のアンケート結果で測ることができた。控えめに見ても「たいへん良かった」または「良かった」という声を多数頂いている。

(3) その他、気付いたことをご記入ください。

団体は組織形態も緩やかで場面場面での方向転換も素早く、行政は予定を立てそれに沿って業務を進めて行く点で違いがあると言われる。22 年度事業ではその違いを活かして行こうとする行政の許容姿勢を複数の場面で感じる事となった。

22 年度協働事業申請時は 21 年度協働事業さなかであった為、細部についてのイメージはまだ困難であった。結果として事業終了後の気づきはやはり多く、22 年度開始後にかんりの部分で修正を加えた(第二回地域防災アンケート実施・防災活動者研修への協力)。

22 年度はかなり流動的な事業であったと言えるが、行政側の許容姿勢によって実施することができた。これは、協働事業実施の中で生じた信頼関係に基づくと思う。

(4) 今後の方向性

- 1、今後も協働で実施 2、団体が主体的に実施 3、行政が主体的に実施 4、休止・終了
5、その他(具体的な事業展開や、1 ~ 4 の補足事項)

行政提案型防災フォーラムは 22 年度で終了とする。

23 年度は市民提案型協働事業として、地域防災活動者育成研修及び防災ニュースを提案採択され、実施予定である。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

事業名	平塚市防災フォーラムの開催 (事業開始年度：平成 21 年度～)		
□ 団体名：ひらつか防災まちづくりの会		■ 担当課：防災危機管理課	
総事業費	126,000 円	内 訳	行政 126,000 円
			団体 0 円

評価の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価 (5段階)
事業の「目的は共有」できましたか。	4
事業での「役割分担」は適正でしたか。	3
「十分に協議」を行いましたか。(双方の特性の理解に努めましたか。)	3
「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4
それぞれが単独で実施するよりも、「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4

の補足内容や、「メリット」・「課題とその対応」などがあれば、ご記入ください。

自主防災組織に関して地域で抱えている課題解決を目標とし、地域のためにプラスになることを積極的に取り組むことができた。

しかし、それに伴い、アンケート、懇談会等の仕事量が多くなり、フォーラムに至っては両者とも協議時間不足、作業時間不足に陥った。そのため、互いの能力に基づく、事前の実施内容の確認と、スケジュール管理はしっかりと行う必要がある。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業「内容」の成果

評 価 項 目	評 価 (5段階)
事業の「目的・目標」は達成できましたか。	4
事業の「経費に見合うサービス」の提供が図られましたか。	4
事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	4
評価できない場合の理由： 来場者のアンケート結果により、 %の方より評価	

の補足内容や、「メリット」・「課題とその対応」などがあれば、ご記入ください。

協働事業により、行政だけではできないアンケート調査の詳細な分析と専門的な考察、共通する問題を抱えた地域を集めての懇談会、フォーラムに向けてのきめ細かな地域へのインタビューなど徹底した意識調査ができた。

(3) その他、気付いたことをご記入ください。

(4) 今後の方向性

- 1、今後も協働で実施 2、団体が主体的に実施 3、行政が主体的に実施 4、休止・終了
5、その他（具体的な事業展開や、1～4の補足事項）

協働事業では、地域における自主防災活動を活性化させるべく、地域防災活動者育成研修（初級、中級）を実施し、フォーラムといった地域を集めての研修会事業については、内容を検討し行政の事業として継続していく。

平成 年度実施協働事業

B : 「相互」評価シート

○	行政提案型協働事業
	市民提案型協働事業

市民活動団体、行政のそれぞれが記入した「A : 自己評価シート」をもとに、
双方で話し合った内容をご記入ください。

事業名	平塚市防災フォーラムの開催 (事業開始年度：平成 21 年度～)		
団体名：ひらつか防災まちづくりの会	担当課：防災危機管理課		
総事業費	126,000 円	内 訳	行政 126,000 円
			団体 円

(1) 協働の「視点」(目的共有、役割分担、十分な協議、対等な立場、相互評価や波及効果等)

自主防災組織に関して地域で抱えている課題解決を目標として、地域のためにプラスになることを積極的に取り組むことができた。

協議時間を十分とり、対等な立場で意見を言うことができた。一方で、役割分担に頼ってしまったこともあり、相互理解を十分深めるには至らなかったが、今後は更なる話し合いでこの課題を解消して行きたい。

(2) 事業「内容」の成果(目的・目標の達成、費用対効果、受益者サービス等)

自主防災組織に関して地域で抱えている課題を、アンケートや懇談会を通じて予め把握できていたので、フォーラムでは地域の求めに答えることができ、また地域の助力となる情報を提供できた。

昨年度のパネリストから今年度のパネリストへのエールを頂くことにより更なる輪が広がった。また昨年から今年にかけ、中高生を巻き込んだ自主防災組織の新たな展開が見られた。(21年から22年へのつながりと発展)

(3) その他、気付いたことをご記入ください。

意識啓発の手法はさまざまだが、意識の高い自主防災組織を助力するにはこれら事業はよい方法であるが、市内の自主防災組織を底上げすることも今後視野に入れなければならない。

(4) 今後の方向性

1、今後も協働で実施 2、団体が主体的に実施 ☒ 3、行政が主体的に実施 4、休止・終了

5、その他（具体的な事業展開や、1～4の補足事項）

平成 23 年度の協働事業では、地域における自主防災活動を活性化させるべく、地域防災活動者育成研修（初級、中級）を実施する。
フォーラムといった地域を集めての研修会事業については、内容を検討し行政の単独事業として継続していく。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見

平成22年度 協働事業報告書

○	行政提案型協働事業
	市民提案型協働事業

平成23年 3月31日

(宛先)
平塚市長

団体名 平塚てづくり紙芝居の会

代表者氏名 鈴木 恵子

事業担当課名 人権・男女共同参画課

事業担当課長名 内田 京子



平成22年度 (事業名) 男女共同参画推進紙芝居製作及び啓発事業について下記のとおり事業報告いたします。

記

実施した 事業の概要	男女共同参画社会を実現するため、子どもを対象とした男女共同参画推進紙芝居を製作した（作品名「サンカクマントのサンカクさん」）。 また、市内保育園、幼稚園及び放課後児童クラブ（学童保育）において、平成22年度までに行政と団体が協働して製作した「みんなのしょうなんアニメーレ」、「ヒラヒラおぼけとツカツカおぼけ」、「サンカクマントのサンカクさん」の上演を行った。
実施年月日、 実施内容、 参加者等	（1）男女共同参画推進紙芝居を製作した。（平成22年8月31日納品） ①タイトル「サンカクマントのサンカクさん」 ②内容 子どもたちが楽しみながら男女共同参画を理解することができる内容で、誰でも簡単に演じることができる平塚らしい作品。 ③主なあらすじ バラの品種をつくる研究者になりたい女の子、バラのケーキ職人になりたい男の子が、キメチャウ兵衛に男と女は役割が違うのだと言われて、二人の夢を逆にされそうになります。二人が泣いているところにサンカクマントのサンカクさんが現れます。二人の「本当になりたい気持ち」によって、二人の夢を元に戻してもらいます。 ④主な仕様 B4版紙芝居サイズ12枚、表面フルカラー、裏面1色 （2）男女共同参画推進紙芝居を保育園、幼稚園、放課後児童クラブの10園で上演した。（別紙：様式1のとおり）

	(3) 男女共同参画推進紙芝居製作及び啓発事業に関する広報活動に協力した。 ①平成23年2月18日(金)吉沢保育園において、平塚市広報番組「協働のススメ」の撮影協力をした。 以上
--	---

(様式1)
(提出先)
平塚市長

平成23年3月31日

上演実績報告書

	上演日時	会場	対象者	参加人数	上演 計 画 の 有 無	上演 従事者 数
				男 人 女 人 内：大人 人、子供 人		
記入例	年 月 日 () 時 分 ~ 時 分	○保育園	5才児 保育士、	20人 内男8人 女12人 内大人4人、子供16人	有	2人
1	平成22年10月 8日(金)	大神保育園	4、5歳 児、保育士	36人 内男19人 女17人 内大人3人、子供33人	有	2人
2	平成22年10月 12日(火)	花水台保育園	4、5歳 児、保育士	46人 内男23人 女23人 内大人3人、子供43人	有	2人
3	平成22年10月 13日(水)	土屋幼稚園	4、5歳 児、教諭	37人 内男18人 女19人 内大人7人、子供30人	有	2人
4	平成22年10月 13日(水)	ひばり幼稚園	4、5歳 児、教諭	56人 内男34人 女22人 内大人3人、子供53人	有	2人
5	平成21年10月 14日(木)	港幼稚園	5歳児、教 諭	29人 内男15人 女14人 内大人3人、子供26人	有	2人
6	平成21年10月 19日(火)	南原保育園	4、5歳 児、保育士	41人 内男23人 女18人 内大人3人、子供38人	有	2人
7	平成22年11月 10日(水)	こどもクラ ブ サク ラ・はうす	小学1、2 年生、先生	22人 男9人 女13人 内大人5人、子供17人	有	1人
8	平成22年11月 26日(火)	真土学童ク ラブ	小学1、2 年生、学童 指導員	26人 男11人 女15人 内大人4人、子供22人	有	1人

(次頁に続く)

9	平成22年12月 27日(月)	富士見学童 保育会	小学1～ 4年生、学 童指導員	49人 ----- 男20人 女29人 ----- 内大人3人、子供46人	有	1 人
10	平成23年2月18 日(金)	吉沢保育園	3、4、5 歳児、保育 士、SCN 関係者	52人 ----- 男20人 女32人 ----- 内大人7人、子供45人	有	2 人
合 計 10回				394人 ----- 内男192人 女202 人 ----- 内大人 41人、 子供 353人	有10件 無 0件	17 人

決算報告書

金額単位：円

項目		予算額	決算額	増減額	具体的な内容
収入	市からの委託料または負担金	110000	88620	21380	事業終了後に残余金が発生したため戻入
	会からの負担金	7000	26924	19924	会費5×1000(2名休会1名死亡退会)=5000、会員寄付金10924
	事業収入	0	12500	12500	てづくり紙芝居講座参加料(25×500)
収入計		A117000	B128044	B-A11044	
支出	項目	予算額	決算額	増減額	具体的な内容(増減の理由や積算根拠)
	製作費	80000	82465 (80000)	2465	紙芝居製作指導謝礼、交通費、紙芝居保管カバー、脚本・絵プロの指導を受けたため
	消耗品費	20000	14330 (8350)	5670	絵の具、彩色筆、わら半紙、筆洗い、通信費、プロの指定画材購入のため
	実演費	10000	270 (270)	9730	上演先へのバス代
	研修費	3400	27379 (0)	23979	てづくり紙芝居講座開催費
	市民活動センター口 ッカー賃借料	3600	3600 (0)	0	
			()		
			()		
支出計		C117000	D128044 (88620)	D-C11044	
支出の決算額の()内は、市からの負担分をご記入ください。					

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

事業名	男女共同参画推進紙芝居実演及び普及啓発事業 (事業開始年度：平成 21 年度～)		
■ 団体名：平塚てづくり紙芝居の会		□ 担当課：人権・男女共同参画課	
総事業費	128,044 円	内 訳	行政 88,620 円
			団体 39,424 円

評価の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価 (5段階)
事業の「目的は共有」できましたか。	4
事業での「役割分担」は適正でしたか。	4
「十分に協議」を行いましたか。(双方の特性の理解に努めましたか。)	4
「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	3
それぞれが単独で実施するよりも、「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4

～ の補足内容や、「メリット」・「課題とその対応」などがあれば、ご記入ください。

本年度は「男女共同参画意識の啓発」について、団体の側からは納得がいかなかったことがあった。紙芝居の上演・展示について会に対し契約書にはない制限が加えられた、また著作権所有権等の問題が起こったが、協議を重ね、妥協点を見いだすことができた。行動原理が違うのだから協議して問題を克服することが「協働」の重要なプロセスだとすればこれらの過程は評価に値すると考えている。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート

→

C : 審査会の意見

(2) 事業「内容」の成果

評価項目	評価 (5段階)
事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5
4 事業の「経費に見合うサービス」の提供が図られましたか。	4
事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	4
(評価できない場合の理由：)	

～ の補足内容や、「メリット」・「課題とその対応」などがあれば、ご記入ください。

紙芝居の制作という点からみれば、脚本・絵ともプロからの助言を受けて制作し、質を向上することができた。7歳児向け等制約の中で平塚市らしくなお男女参画意識啓蒙を全面にだした作品をつくることが出来た。上演した結果、7歳児対象ということもあり学童のこどもの反応が良かった。(感想文)それにより目的を十分達成することが出来たものと考えている。

会としてもきちんと指導を受けて制作することで、制作の力が向上した。

(3) その他、気付いたことをご記入ください。

後世に残る作品の創作や制作に関して、作家の目からの視点での評価をするなど、実務的な価値だけでなく、文化的な価値がもっと評価されてもいいと考える。著作制作費はその時に消耗する事務労働力とは違うので人件費として時間で考えないほうがいいのではないかと考えた。

(4) 今後の方向性

、今後も協働で実施 2、団体が主体的に実施 3、行政が主体的に実施 4、休止・終了
5、その他(具体的な事業展開や、1～4の補足事項)

平成23年度については、内容を変更して(製作ではなく、普及啓発として保育士等に協働事業で製作した紙芝居の効果的な実演の仕方の講義をする)事業を実施する。

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

事業名	男女共同参画推進紙芝居製作及び啓発事業 (事業開始年度：平成 21 年度～)		
□ 団体名：平塚てづくり紙芝居の会		■ 担当課：人権・男女共同参画課	
総事業費	128,044 円	内 訳	行政 88,620 円
			団体 39,424 円

評価の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評価項目	評価 (5段階)
事業の「目的は共有」できましたか。	4
事業での「役割分担」は適正でしたか。	4
「十分に協議」を行いましたか。(双方の特性の理解に努めましたか。)	4
「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	4
それぞれが単独で実施するよりも、「相互効果や波及効果」が得られましたか。	4

～ の補足内容や、「メリット」・「課題とその対応」などがあれば、ご記入ください。

男女共同参画の推進というテーマを子どもたちに分かりやすく伝えることは難しいことだったが、団体と行政が脚本を練り上げる際に、双方の思いをその都度協議しながら作り上げることで作品を作り上げることができた。

また、紙芝居の上演や展示に関して、著作権等の問題が生じたが、団体と話し合いを重ねることで、妥協点を見いだすことができた。考えや立場などの違いを理解するためには、その都度話し合いの場を持つことが大切であり、協議を重ねることで課題を解決していくことができたと思う。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

(2) 事業「内容」の成果

評 価 項 目	評 価 (5段階)
事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5
事業の「経費に見合うサービス」の提供が図られましたか。	5
事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	5
(評価できない場合の理由：)	

～ の補足内容や、「メリット」・「課題とその対応」などがあれば、ご記入ください。

団体のノウハウやアイデアがあったからこそ、平塚を舞台にした物語で子どもたちにも身近で愛着をもってもらえるような作品をつくることができた。

22年度は、小学校低学年の児童を対象にした作品づくりを行った。出来上がった作品は、保育園児、幼稚園児よりも学童保育の子どもたちの反応が良かったので、対象年齢に合った作品をつくることができたと思う。

(3) その他、気付いたことをご記入ください。

協働事業を進めるためには、団体と行政の考えや立場の違いを理解することが大切だと思う。そのためには、課題が生じた際には、協議の場を持って、お互いの意見を話し合い、妥協点を見いだしていくことが不可欠である。

(4) 今後の方向性

、今後も協働で実施 2、団体が主体的に実施 3、行政が主体的に実施 4、休止・終了
5、その他（具体的な事業展開や、1～4の補足事項）

平成23年度は、内容を変更して（製作ではなく、普及啓発として保育士等に協働事業で製作した紙芝居の効果的な実演の仕方の講義をする）事業を実施する。

平成22年度実施協働事業

B:「相互」評価シート

○	行政提案型協働事業
	市民提案型協働事業

市民活動団体、行政のそれぞれが記入した「A:自己評価シート」をもとに、
双方で話し合った内容をご記入ください。

事業名	男女共同参画推進紙芝居製作及び啓発事業 (事業開始年度:平成21年度~)		
団体名:平塚てづくり紙芝居の会	担当課:人権・男女共同参画課		
総事業費	128,044 円	内 訳	行政 88,620 円
			団体 39,424 円

(1) 協働の「視点」(目的共有、役割分担、十分な協議、対等な立場、相互評価や波及効果等)

協働事業を取り組んでから2年目になり、前年度から経験を積み重ねてきたことで、行政側の担当者が異動しても協議がしやすかった。

最終的には、団体にとっても行政にとっても「市民のために行う」という目的が一致していることが大切である。

十分に協議を重ねながら、合意をしていくことができた。

(2) 事業「内容」の成果(目的・目標の達成、費用対効果、受益者サービス等)

上演を観た子どもたちから感想文をいただいたが、その中で「男女関係なく夢を持てばいいと勉強になった」「男の子と女の子の夢が普通と逆でもいいのだとわかった」「楽しかった」という意見があり、受益者である子どもたちの理解の促進、満足度は図られたと思う。また、目的・目標は達成できたと思う。

(3) その他、気付いたことをご記入ください。

製作した作品を上演するまでは、責任や不安があったが、子どもたちの反応を見て安心した。

向上心を持って取り組むことができた。また、実演、リハーサル、練習が不可欠であり、紙芝居の勉強が必要であると感じた。

協働事業で保育園等に上演することで、団体の存在を知ってもらい、信頼を得ることで、今後の団体の活動につなげることができた。

(4) 今後の方向性

、今後も協働で実施 2、団体が主体的に実施 3、行政が主体的に実施 4、休止・終了
5、その他(具体的な事業展開や、1～4の補足事項)

平成23年度については、内容を変更して(製作ではなく、普及啓発として保育士等に協働事業で製作した紙芝居の効果的な実演の仕方の講義をする)事業を実施する。

評価の流れ A:「自己」評価シート→ **B:「相互」評価シート** → C:審査会の意見

平成22年度 協働事業報告書

○	行政提案型協働事業
	市民提案型協働事業

平成23年3月31日

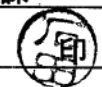
(あて先)
平塚市長

団体名 浜岳中学校区子ども読書活動推進協議会

代表者氏名 諸山朝子

事業担当課名 くらし安全課

事業担当課長名 石田有信



平成22年度 (事業名) ころと命のサポート事業 「自殺対策啓発事業」 について下記のとおり事業報告いたします。

記

実施した事業の概要	① 読み聞かせによる幼少期からの啓発 「いのちの尊さを伝える本」ブックリスト作成及びリストの本を活用した読み聞かせ ② 地域で恒例となった落語会での子どもからお年寄りの方への啓発 「命の尊さを考えさせられるような噺」を取り入れてもらった落語会 ③ 機関紙 (中学校区自治会回覧) への関連記事掲載による普及啓発
実施年月日、実施内容、参加者等	① 「いのちの尊さを伝える本」ブックリスト作成 (1) 学校へ行こう週間 (10月～11月) に各学校図書館でリストの展示と配布及びその図書館の蔵書の中からリストの本を展示 (花水小学校、浜岳中学校) (2) 「いのちの尊さを伝える本」ブックリストの本を活用した読み聞かせ ・花水保育園 (11月1日、8日) 2回 43人 ・花水小学校 (5月～12月) 13回 416人 ・浜岳中学校 (10月29日) 1回 20人 ② 落語会 11月23日(祝) 12:30～15:30 花水公民館ホール ・小学生の部「たのきゅう」ほか 53人 ・一般の部「猿の手」ほか 43人 命の尊さを再確認してもらう契機となった。 ③ 機関紙「えがおで本!」の発行 7月、3月 2回発行 各1,000部 花水・なでしこ地区自治会回覧 協働事業の活動内容について、地域の方に知っていただいた。

決算報告書

金額単位：円

項目		予算額	決算額	増減額	具体的な内容
収入	市からの委託料または負担金	40,000	40,000	0	
	会からの負担	0	4	4	
	事業収入				
収入計		A 40,000	B 40,004	B - A 4	
項目		予算額	決算額	増減額	具体的な内容（増減の理由や積算根拠）
支出	報償費	20,000	30,000 (30,000)	10,000	落語会講師謝礼
	消耗品費	20,000	10,004 (10,000)	9,996	子どもの部、一般の部 2 回開催による謝礼金の増額 落語絵本、封筒、マジック
			()		
			()		
			()		
			()		
			()		
			()		
			()		
			()		
支出計		C 40,000	D 40,004 (40,000)	D - C 4	
支出の決算額の () 内は、市からの負担分をご記入ください。					

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

事業名	こころと命のサポート事業 (事業開始年度：平成 22 年度～)		
■ 団体名：浜岳中学校子ども読書活動推進協議会		□ 担当課：くらし安全課	
総事業費	40,004 円	内 訳	行政 40,000 円
			団体 4 円

評価の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評 価 項 目	評 価 (5 段階)
事業の「目的は共有」できましたか。	5
事業での「役割分担」は適正でしたか。	5
「十分に協議」を行いましたか。(双方の特性の理解に努めましたか。)	5
「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5
それぞれが単独で実施するよりも、「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5

～ の補足内容や、「メリット」・「課題とその対応」などがあれば、ご記入ください。

課題 >

- ・ 他中学校区への波及が課題だが、機会があるごとに担当者が同席してくれ広報活動に努めてくれた。

評価の流れ

A : 「自己」評価シート

→

B : 「相互」評価シート →

C : 審査会の意見

(2) 事業「内容」の成果

評価項目	評価 (5段階)
事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5
事業の「経費に見合うサービス」の提供が図られましたか。	5
事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	4
(評価できない場合の理由：アンケート調査などをしなかった。)	

～ の補足内容や、「メリット」・「課題とその対応」などがあれば、ご記入ください。

メリット>

- ・学校、保育園、公民館、図書館、自治会などで幅広い年齢層に向けて効果的に普及活動ができた。校長先生がいのちの授業を実施してくださった学校もあった。

課題>

- ・今後は受益者からの評価をもらう工夫をしたい。

(3) その他、気付いたことをご記入ください。

(4) 今後の方向性

○1、今後も協働で実施 2、団体が主体的に実施 3、行政が主体的に実施 4、休止・終了

5、その他（具体的な事業展開や、1～4の補足事項）

いのちの尊さを伝える本リーフレット作成、中学生への発信など

A : 「自己」評価シート

市民活動団体・行政のそれぞれが、「自己」評価について記入してください。

事業名	ことろと命のサポート事業 (事業開始年度：平成 22 年度～)		
□ 団体名：浜岳中学校子ども読書活動推進協議会		■ 担当課：くらし安全課	
総事業費	40,004 円	内 訳	行政 40,000 円
			団体 4 円

評価の参考基準

5	4	3	2	1
非常によくできた	よくできた	まあまあできた	あまりできなかった	できなかった

(1) 協働の「視点」

評 価 項 目	評 価 (5 段階)
事業の「目的は共有」できましたか。	5
事業での「役割分担」は適正でしたか。	5
「十分に協議」を行いましたか。(双方の特性の理解に努めましたか。)	5
「対等な立場」を尊重して事業を実施できましたか。	5
それぞれが単独で実施するよりも、「相互効果や波及効果」が得られましたか。	5

～ の補足内容や、「メリット」・「課題とその対応」などがあれば、ご記入ください。

課題 ・この取り組みを参考に、他地区でも取り入れてもらえるよう P R 活動も行っているが、手をあげてくれるまでには至っていないため、今後いかに広げていくかが課題。

評価の流れ A : 「自己」評価シート → B : 「相互」評価シート → C : 審査会の意見

(2) 事業「内容」の成果

評 価 項 目	評 価 (5段階)
事業の「目的・目標」は達成できましたか。	5
事業の「経費に見合うサービス」の提供が図られましたか。	5
事業に対する「受益者（市民）の満足度」は十分に図られましたか。 (受益者からの評価がわかる場合)	4
(評価できない場合の理由：)	

～ の補足内容や、「メリット」・「課題とその対応」などがあれば、ご記入ください。

課題

・地域の中で定着してきている「落語会」での演目の選定
(受益者に「楽しい、よかった」と感じてもらえる演目と、命の尊さや大切さを視点に選んだ演目が一致するか?)

(3) その他、気付いたことをご記入ください。

(4) 今後の方向性

- 1、今後も協働で実施 2、団体が主体的に実施 3、行政が主体的に実施 4、休止・終了
5、その他(具体的な事業展開や、1～4の補足事項)

平成22年度実施協働事業

B:「相互」評価シート

○	行政提案型協働事業
	市民提案型協働事業

市民活動団体、行政のそれぞれが記入した「A:自己評価シート」をもとに、
双方で話し合った内容をご記入ください。

事業名	こころと命のサポート事業（自殺対策事業） （事業開始年度：平成22年度～）		
団体名：浜岳中学校区子ども読書活動推進協議会	担当課：くらし安全課		
総事業費	40,004 円	内 訳	行政 40,000 円 団体 4 円

（１）協働の「視点」（目的共有、役割分担、十分な協議、対等な立場、相互評価や波及効果等）

・命の大切さ、尊さについて理解し、自己肯定感を持つ子どもたちを育てていくことが長い目で見た「自殺予防」につながる、という大きな目的を共有。

団体には本を通じた具体的な活動の中に「命の大切さ、尊さ」の視点を取り入れてもらう、行政は広報・PR活動を中心に役割分担。必要に応じて意見交換をし、イベント等を実施。地域や学校にこの取り組みを知ってもらうことができた。

（２）事業「内容」の成果（目的・目標の達成、費用対効果、受益者サービス等）

・成果物として、「いのちの尊さをつたえる本140 vol.2」が完成し、他地区協議会へ情報提供するほか、小学校児童、イベント時に配付。また、このリストの中の本を保育園、小学校、中学校での読み聞かせに活用した。

・「命の尊さ・大切さ」を視点に演目を選んでもらった「落語会」を実施。幅広い年齢層に満足してもらえるよう、子どもの部、一般の部と2回開催、それぞれに楽しんでもらうことができた。

（３）その他、気付いたことをご記入ください。

団体の中でもあらためて自分たちの活動の意義を再確認できたという波及効果があった。

(4) 今後の方向性

- 1、今後も協働で実施 2、団体が主体的に実施 3、行政が主体的に実施 4、休止・終了
- 5、その他（具体的な事業展開や、1～4の補足事項）

・協働事業の取組みを、駅地下広告版などを活用して発表

評価の流れ A : 「自己」評価シート → **B : 「相互」評価シート** → C : 審査会の意見